

危機管理がますます重要

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC運営委員長 梶原 孝生

JR宝塚線の尼崎脱線事故から既に数ヶ月が過ぎ、運行も色々な問題を含みながらも、取りあえず復旧運転を開始しました。

まだ明確な脱線原因が完全には解明されていません。しかし、スピードの出し過ぎがその一因であることは間違いなさそうです。脱線して斜めに傾いたまま、高速であれだけの距離を突っ走って、マンションに突っ込むというのは、通常の脱線転覆では考えにくいでしょう。相当な速度での突っ込みだったと考えただけでも、その光景を想い浮かべて身の毛がよだってきます。

事故原因の解明は事故調査委員会に任せるとして、しかし、あの電車に乘客として同乗していた二人の運転士がその場を去ったという記事は驚愕の出来事でした。

プロとしての運転士の行動と発想のはずが、我々部外者から見ても、どうしても理解を超えています。

私はかつて旧国鉄の電気機関車の機関士を数多く知っておりました。彼らはいわゆる匠の世界に生き甲斐を感じる真のプロの世界を追求していました。しかし、国家試験がきつくなり、ペーパーテストで賢いものが生き残る術となると、段々と匠の世界から遠ざかってきた様にも感じられます。

機関士の世界だけではなく、警察の検挙率の低下にも、同じことが言えそうな気がします。

昔の鬼刑事が減り、エリート刑事が跋扈するようになると、豊富な経験を生かした鋭い嗅覚をもった鬼刑事はなかなか登場してこないように感じられます。

いま、企業のリストラの嵐の中で、人員削減の余波を受けてこの匠のプロたちが、ものづくりの現場からも消えていっていることに

よる、若者への匠の世界の伝承が切れているという強い危機感を持たざるを得ません。

話はまたJRの事故に戻りますが、新聞報道によれば、地域が違ふとはいえ、天王寺車掌区の連中が当日ボーリングに興じたり、宴席で熱を上げたり、また、違う電車区では翌日ゴルフにいそしんでいたという記事があり、響感をかっており、マスコミから散々叩かれていました。

JRの危機管理は一体どうなっているのでしょうか。

しかし、ひるがえって考えてみた場合、我々の周辺での危機管理は、それを批判できるだけの万全の体制でしょうか。

JR西日本が企業風土に問題があったというのはその通りかも知れませんが、掛け声をかけて精神論に入るのは危険です。仕組みを変え、その中での適切な繰り返しの訓練こそが重要です。

危機管理マニュアルが完備しているのか、その訓練は周到に行われ、全員がその行動指針を熟知しているのか、このJRの事故を他山の石としてチェックしなおす必要もありそうにも思えます。

危機管理にも色々な危機が想定されます。例えば、工場での重大事故、社員の海外での事故遭遇、そして、今こそ必須なのが地震対策です。

10年前の阪神淡路大地震での企業の危機管理は、それ以前での危機管理対策が万全であったか否かで結果が大きくわかれてきました。

いま、ATACではこの地震対策指針を中堅・中小企業にむけて発信しようとしています（次頁）。是非ともご活用を待っております。

合 掌

被害総額500億円！

— 地震対策は万全ですか？ —

一社で500億円！ 大きな損害額です。昨年10月23日、新潟県を襲った「平成16年新潟県中越地震」は、12万棟を超す家屋や工場建屋などに甚大な被害をもたらしました。三洋電機グループの新潟三洋電子（株）も被害を免れることはできず、その被害総額は、復旧費用も含めて500億円を超し、当初黒字見込みだった三洋電機グループの今3月期連結決算は、700億円もの純損失の計上に追い込まれました。私たちは阪神淡路大震災から、企業の危機管理の一環として地震防災対策が極めて重要なことを学びましたが、その震災から10年を経た今、この中越地震を新たな教訓、新たなきっかけとして、企業の地震対策を見直す格好の時期ではないでしょうか…。50年の休止期を経た近畿一円は、阪神淡路大震災を区切りとして、今や地震の活動期のまっただ中にあることも、今一度、心に銘記すべき時ではないでしょうか…。

ATACは阪神淡路大震災の後、当時の科学技術庁の委嘱を得て、中堅・中小企業の地震防災対策を研究し、地震に備えた事前準備はどうあるべきか、地震発生時の対応マニュアルはどのようなものが必要か、などを「地震防災行動指針策定ガイドライン — 中堅・中小企業の地震防災マニュアル作成のために —」をまとめました。このガイドラインは、当時、阪神淡路大震災を受けて社内の防災体制を見直そうとしていた三社に、実際に活用して頂き、修正と有用性の確認をして仕上げたものです。ATACは、この研究の完成後は、地震防災体制の構築やアップデートのお手伝いを依頼されたときには、このガイドラインをベースにコンサルティングを進め、そのお手伝いをしています。

ガイドラインに沿った防災対策の進め方を以下に簡単にご紹介します。

1. 事前対策

地震被害を最小限に止めるためには、事前に危険性や被害を予想し、その軽減対策と地震発生時に効果的な対応ができる体制を作っておかねばなりません。具体的には、

- ①経営トップの意志表明：まず、トップの危機意識と防災体制構築への明確な意志を表明し、全社員との共有化を図ります。
- ②地震防災対策チームの編成：十分な権限と作

業時間を確保した事前対策実行班を編制します。

- ③地震防災対策計画の立案と実行：現状に対して被害状況とその影響を想定し、被害軽減のためにできる改善をすすめ、被害が避けられないものに対しては、予備の生産拠点の確保など、そのバックアップ体制を計画し整えます。避難ルートの確保、緊急時通信の確保、重要記録の保全対策なども重要です。これらを進める中で、緊急時対応計画のポイントが浮かび上がってきます。
- ④地震防災対策の研修と訓練：構築された防災体制の、全社員への周知のための研修が仕上げであり、定期的な訓練がメンテナンスとなります。

2. 緊急対応計画（地震防災マニュアル）

地震発生時の行動指針となるもので、防災体制構築の中心となるものです。事前対策の③を進める中で生まれ、定期訓練を通じてアップデートされます。

また、すでに地震防災体制をお持ちの企業に対しては、ATACは、

- ① 事前対策のためのチェックリスト
- ② 緊急対応計画（地震防災マニュアル）作成のためのチェックリスト

を準備し、防災体制アップデートのお手伝いの体制も整えております。500億円の被害総額が話題になったこの機会に、ATACと共に防災体制の構築やアップデートを検討してみませんか？
(五百蔵記)



読者の皆様との交流頁

この頁を読者の皆様とATACとの相互交流に使っています。

読者の 一言

業績良好企業の特徴

当会計事務所は、父親の代から通算しますと創業54年になります。私の代になって早や22年目となりました。多くの中小企業の経理を見せていただき、社長さんと面談させていただいて参りました。父が亡くなり跡を継いだ直後は、32歳の私に父と同年代の社長さん方に商売・礼儀・遊び方等いろいろ教えていただいた上に、私が報酬をいただくというんでもない時期がしばらく続きました。

さて、いろいろな会社を見せていただき、業績良好企業を見ていますと、業績良好企業の原因について、すなわち①商製品の優秀性②営業の上手さ③社長の人柄等々が思い浮かびます。ところでもう一つ共通項を思います。それは、「時刻及び時間の正確性」という点です。面談等の時刻に早くもなく遅くもなく正確に、かつ、所要時間についても要点について深く掘り下げた議論をしつつも、ほぼ予定通

り終わります。又、即決すべき事は早く、熟慮すべき事については、しかるべきタイミングに決断されます。

この様な時間の使い方、正確性が経営のあらゆる面に発揮されているであろう事は想像に難しくないとされます。会社の人・物・カネの配分等の効率性の向上にもぎっと生きてきている事でしょう。私も社会の先輩たる社長さん方に見習い、約束の時刻・時間厳守に今後も気をつけて参りたいと思っています。

(日根野公認会計士事務所 所長 日根野文三)



企業

PR コラム

お客様への「喜びの創造」を!

東洋ハイテック株式会社 代表取締役社長 三谷哲雄

弊社は、創業以来、粉体設備のエンジニアリング、粉粒体機器、装置の販売、開発を一筋に40余年営んでおります。インスタントコーヒー、ペットフード、CD、電池、電子材料など、「粉」は私たちの生活に非常に身近なものなのです。



より良い商品・装置、たしかかなサービスの提供を通してお客様に「喜び」「心地よさ」「満足」を提供することを使命としています。特に粉体ハンドリングを中核とした粉体装置の構築を得意としています。

ハンドリング機器としての「アスベック」という小型の空気輸送装置や英国から技術を導入した「ISLバルクコンテナシステム」はお客様から高く評価していただいております。

上海には独資会社を設立し、中国での粉体関連のお客様へもお役に立てればと思っております。

また大きな独自性として、粉体のあらゆる検証試験を行える「粉体技術センター」を兵庫県篠山市に設けてお

り、弊社とお客様との接点として貴重な役割を担っております。昨今の環境問題には注目し、遊休品を整備し、お客様へ提供するリユース事業部も立ち上げており、お客様に喜んでいただいております。

2004年には、ATAC様の多大なご協力を得て、無事ISO14001の認証取得をすることが出来ました。



東洋ハイテック株式会社

〒530-0028 大阪市北区万歳町3番20号 北大阪ル
TEL: 06-6312-4171 FAX: 06-6312-5209
E-MAIL info@toyohitec.com
URL http://www.toyohi.co.jp/



ATACホームページもご覧下さい

ATACニュース第12号に関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。 担当/三原・梅村

ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部
TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319
e-mail: atac@ostec.or.jp

URL <http://www.atac.ne.jp>

ATAC行事企画のご案内

第7回 社長懇話会を11月16日(水)、大阪府堺市の株式会社中村超硬にて開催の予定です。工場見学、社長講演、懇親会と、たいへん有意義で毎回好評をいただいている行事です。参加人数を限定しておりますので参加をご希望される社長又は経営者の方は下記の第7回社長懇話会ご案内送付申込書欄に必要事項を記入してFAXしてください。

第7回社長懇話会ご案内送付申込書 **FAX 06-6443-5319**

企業名	社長又は経営者名	
	担当者名	
所在地		
TEL	FAX	
E-mail		
今後、社長懇話会情報のご連絡を希望する場合(どちらかに✓してください)		
<input type="checkbox"/> FAX / <input type="checkbox"/> E-mail		

ATAC散歩道

愛・地球博(愛知万博)訪問の記

梅雨の中休みの好天の日に愛知万博を覗いてきました。前回の大阪万博(テーマ:人類の進歩と調和)は高度成長期の35年前の1970年でした。それから80年代にかけて世界のGNPの10%を占め、かつてない繁栄をしました。その当時は日本および日本人は自信にあふれ、輝いていました。丁度、司馬遼太郎の「坂上の雲」がベストセラーになっていた頃でもありました。その結果が6000万人超の入場者で会場が沸きかえていたことが思いだされます。

今回の愛知万博はテーマが「自然の叡智」であり、環境を重視した内容・運営になっています。会場は名古屋東部丘陵(海上の森)一帯で大阪万博と比べると比較的小ぶりになっています。全体が丘陵地であるため、その自然を生かした設営になっていて、小高い山や池、林や里山などをそのまま利用しています。したがって各パビリオンは設置場所が限られるため、外国8カ所、企業は2カ所のゾーンに分かれています。そのため移動距離が多く、また上がり下がりもあるため、ある人は「アイチ万博」でなく「アルク万博」や、と言っている人がいました。

今回の特徴の一つになっている「グローバル・ループ(空中回廊)」という会場をほぼ一周できる巨大な歩道橋のようなものが設置されています。これは回廊の下の林や里山などをそのままの姿で残したいという配慮であると思います。さらにこの回廊は全て鉄柱と鉄骨で構築され歩道のところは全部板張り、すなわちフローリングになっています。これなども後で解体し易いように、また環境を破壊しないようにコンクリートを可能な限り使わないという考えではないかと思えます。パビリオンは外国や国際機関の出展数は35年前の大阪万博の時は57でしたが、今回は非常に多く124カ国・機関が出展しています。35年の間にそれだけ国際化が進んだということでしょう。反対に企業の出展は大阪の時の27に対して僅かに9と大幅に減っています。ここ十数年は全ての企業がリストラに明け暮れ、今もその過程にあり当然の結果だと思えます。出展しているのは一部を除いて殆んどが元気のよい地元の企業です。愛知万博が決定したのは1997.6.12です、すなわち8年前です、この地区の企業の業績が今日のような姿になると誰が予想したのでしょうか。結果的には大変よかったのではないのでしょうか。

環境対策としては、会場内のゴミの収集は12分別するようにゴミ入れが用意されています。また、身障者や老人のために車椅子を沢山用意してあるのも特徴です。パビリオンによっては車椅子の方々を優先的に入場させるところもあるようです。いずれにしても外国のパビリオンは別として、企業の人気パビリオンへは2~数時間の待ち時間を覚悟する必要があります。なお、一カ月前から1人2つのパビリオンまで事前に予約できる方法があるので有効に利用されることをお勧めします。人気と噂されるパビリオンは色々ありますが個人個人によって興味が異なりますし、また、子供やお孫さんなどを同伴して行かれる場合もそれぞれの思いがありますので事前によく作戦を立てて行かれることがよいでしょう。

なお、忘れてはならないのは、暑さ対策、日除け対策です。

(藪野記)